

令和6年度 東久留米市立 第六小学校 学校経営計画

|                   |   |   |        |  |   |
|-------------------|---|---|--------|--|---|
| 学校教育目標            | ○考える子<br>○助け合う子<br>○元気な子  | 〔目指す目標〕<br>「子供も大人も『Well-being』の実現」<br>〔目指す教育〕<br>『次代に生きる子供を育てる』 | 教育ビジョン | 【目指す学校像】<br>○明日の登校を楽しみにする子供のあふれる学校<br>○明日の出勤を楽しみにする教職員のあふれる学校<br>○来校することを楽しみにする保護者・地域の方があふれる学校 | 20240501 自己申告前教職員配布<br>⇒学校評価の評価内容です。<br>※下線部が保護者会配布より変更 |
|                   |   |   |        | 【目指す児童・生徒像】<br>人間味あふれ、自ら考え、自ら学ぶ子供  |   |
| 前年度までの学校経営上の成果と課題 | 【成果】◇落ち着いた温かい支持的風土の学年・学級集団の形成 ◇児童の基本的な学習習慣・学習規律、規範意識の定着 ◇よりよい学校生活を目指して児童が主体的に行動しようとする意識の向上 ◇地域の人材や環境を生かした体験的活動の推進 ◇校内研究の成果を生かした授業<br>【課題】◇基礎学力の定着 ◇「考える、調べる、書く、話す、関わる必然性のある授業改善 ◇教科横断的な学習指導 ◇特別支援教育、個に応じた指導の推進 ◇学校2020レガシーの推進 ◇効果的な組織運営 |   |        |  |   |

| 東久留米市第3次教育振興基本計画 |                          |                       |                       | 中期経営目標   | 短期経営目標  | 評価指標・評価基準  |  | 評価内容  |  |   |
|------------------|--------------------------|-----------------------|-----------------------|--|---|--|--|---|--|---|
| No.              | 三つの柱                     | 基本施策                  | 今年度学校で重点を置く「具体的施策」    | (令和8年度までの3年間)  | (1年間)   | 取組指標   | 成果指標                                     | 児童  | 保護者  | 教職員   |
| 1                | I 人権尊重の精神の涵養と健全な心と体の育成   | 個性を認め合う教育の涵養          | 人権尊重教育の推進             | 市教育委員会人権行動指針に基づき、自他を大切にし、差別や偏見を許さない学校づくり。  | 全教育活動を通して、互いのよさや立場を尊重し合える心育が育つよう努め、集団での自分の立場と責任を自覚し、互いに協力して行動しようとする態度を育てる。(児童一人一人に対して教職員全員が担任である意識) | ・学校全体における言語環境の整備<br>・学級活動などの実践的活動<br>・学校行事等の学年の枠を超えた交流<br>・人権尊重月間での全校取り組み<br>・人権教育の研修等とおとし、教職員一人一人の権威の克服   | A:3.5以上<br>B:3.2以上<br>C:3.0以上<br>D:3.0未満 | ・学校が楽しい<br>・先生は、良いところや頑張ったところを認めてくれる。                                 | ・児童一人一人の良さや成長を認め、伸ばす教育を行っている。                      | ・児童一人一人の良さや成長を認め、伸ばす教育を行っている。                                       |
| 2                | I 人権尊重の精神の涵養と健全な心と体の育成   | 個性を認め合う教育の涵養          | 特別支援教育の充実             | 特別支援教育に対する理解を深め、個に応じた支援の充実、ダイバーシティとインクルージョンを推進し、「共に生きる」仲間としての意識を育てる                            | 自分を知るとともに、多様性を互いに尊重し、認め合い、共に活躍・成長することができる力の育成を図る。   | ・UDの授業の実施<br>・特別支援教育研修会の実施<br>・校内委員会の充実<br>・生活指導委員会の充実<br>・特別支援教室、通級、通常級教員、SC等の連携の充実<br>・児童一人一人が「好きなこと、好きなものでできる、できた」が増える指導の実施<br>・巡回指導教員、通級指導教員、担任による、6年間を見通した理解啓発授業の実施<br>・特別支援コーディネーター、特別支援教室巡回指導教員、通級担任、学級担任の連携の充実   | A:3.5以上<br>B:3.2以上<br>C:3.0以上<br>D:3.0未満 | ・1年間で「好きなこと、もの、できるようになったこと、できたこと」が1つでも増えた児童、「個に応じた学校教育が行われている」と答えた保護者 | ・児童一人一人の良さや成長を認め、伸ばす教育を行っている。                      | ・児童一人一人の良さや成長を認め、伸ばす教育を行っている。                                       |
| 3                | I 人権尊重の精神の涵養と健全な心と体の育成   | 個性を認め合う教育の涵養          | 不登校問題への対応             | 児童一人一人が認められ、尊重し、生かされる場、活動の場、機会の設定を行い、児童自らが自分を知るとともに、自尊心や自己肯定感を高める。                             | 校内別室登校支援教室を活用し、一人一人のニーズに合った工夫した支援体制を構築し、児童自身がもっている力を発揮することができる。                                     | ・全教職員がカウンセリングマインドの姿勢で児童、保護者に寄り添い、問題の早期発見、早期対応を図る。<br>・校内委員会の充実<br>・校内別室登校支援教室の活用<br>・児童、保護者、教職員、支援員、特別支援コーディネーター、SC、外部機関等と連携して、支援体制の充実を図る。   | A:3.5以上<br>B:3.2以上<br>C:3.0以上<br>D:3.0未満 | ・学校はいじめがなく安心できる。<br>・相手の気持ちを考え、助け合って生活している。                           | ・児童等の情報共有として生活指導夕会や校内委員会等が機能している。                  | ・児童等の情報共有として生活指導夕会や校内委員会等が機能している。                                   |
| 4                | I 人権尊重の精神の涵養と健全な心と体の育成   | 規範意識や他人を思いやる心を育む教育の推進 | いじめ問題への対応             | いじめ対策防止委員会によるいじめの実態把握と早期発見・対応を組織的にに行い、に、いじめ防止のために自ら行動できる児童を育てる。                                | 自尊心や自己肯定感を高められる、児童一人一人が認められ、生かされる場活動の場、機会の設定、互いのよさを認め合う学級づくりを行う。                                    | ・児童一人一人が認められる学校、学級づくり<br>・道徳科授業の充実<br>・「六小6つの『あ』」の指導の徹底<br>・年3回の児童アンケートの実施<br>・児童会を中心にいじめ防止活動の展開<br>・SCによる5年全員面接<br>・教職員の週1回の情報共有<br>・SOSの出し方に関する教育や生命に関する安全教育の実施  | A:3.5以上<br>B:3.2以上<br>C:3.0以上<br>D:3.0未満 | ・「自分には良いところがあると思うか」<br>・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」                   | ・児童には、道徳的心情や判断力、道徳の実践力が育まれるよう、道徳の授業を工夫している。        | ・児童には、道徳的心情や判断力、道徳の実践力が育まれるよう、道徳の授業を工夫している。                         |
| 5                | II 人生を切り拓き、社会を創る確かな学力の育成 | 確かな学力の育成              | 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 | 学習活動や授業展開を工夫し、基礎的・基本的な知識および技能の確実な定着を図るとともに、自ら学び、考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力(思考力・判断力・表現力)を育成する。 | 「考える、調べる、書く、話す、関わる必然性のある授業」を仕掛け、「使える、つくる能力」を育む。   | ・全教員による相互授業参観の実施(年3回)<br>・校内研究の充実<br>・授業改善推進プランの活用<br>・学習態度別指導の充実<br>・週3回(国語2回、算数1回)の朝学習実施、適切な評価<br>・「わらいを伸ばした授業」の実施<br>・「わらいを伸ばした授業」の実施<br>・授業のあれが分かる板書づくり<br>・児童一人1台端末を活用した「個」に応じた学習指導<br>・学習の振り返りの充実を図る(自己評価、相互評価の工夫) | A:3.5以上<br>B:3.2以上<br>C:3.0以上<br>D:3.0未満 | ・先生は、勉強を分かりやすく教えてくれる。<br>・課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ                    | ・指導法や教材を工夫し、児童一人一人に応じた分かりやすい授業を行っている。              | ・指導法や教材を工夫し、論理的思考、創造性を育成している。                                       |
| 6                | II 人生を切り拓き、社会を創る確かな学力の育成 | 確かな学力の育成              | 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 | 問題を主体的に取り組む態度、一人1台端末やICT機器を活用してよりよい社会を築いていこうとする態度の育成を図るとともに、教科学習の学びの定着を図る。                     | 論理的な思考の育成を図るとともに、個に応じた学習と学習の定着をはかる授業を実施する。  | ・一人1台端末やICT機器を活用した授業の実施<br>・プログラミング学習の実施<br>・一人1台端末の活用事例やプログラミング教育研修の実施  | A:3.5以上<br>B:3.2以上<br>C:3.0以上<br>D:3.0未満 | ・「問題を解決するために、自分の考えをもつことができた」自分の考えを筋立てて、説明することができた」と答えた児童              | ・児童に基礎的・基本的な学力を身に付けさせている。                          | ・ICT機器や一人1台端末等を児童の学びに活用している。  |
| 7                | II 人生を切り拓き、社会を創る確かな学力の育成 | 確かな学力の育成              | 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 | 個々の児童の興味や関心に基づく自主的な学習を奨励して学習意欲を高め、家庭での学習習慣を身に付けさせる。  | 学年の発達段階に合った課題を与え、自主学習を奨励し家庭での学習習慣を育てる。  | ・学年×10+10分の家庭学習の実施<br>・一人1台端末の活用も含む「六小家庭学習の手引き」の見直しと活用   | A:3.5以上<br>B:3.2以上<br>C:3.0以上<br>D:3.0未満 | ・家で学年×10+10分の家庭学習(宿題、自主学習)に取り組んだ。                                     | ・家庭では、学年×10+10分の家庭学習(宿題、自主学習)に取り組み、家庭学習の習慣化を図っている。 | ・学年の実態に応じて、宿題の他に自主学習を通し、自分の課題に応じた家庭学習の習慣化を図っている。(一人1台端末の活用も含む)      |
| 8                | II 人生を切り拓き、社会を創る確かな学力の育成 | 確かな学力の育成              | 連携・協働による教育活動の推進       | 地域の人的、物的、環境的資源を活用した体験活動の充実を図り、地域社会の一員としての自覚と地域に対する愛情を育てる。                                      | 校内研究をとおして、各教科等の指導計画に基づき、地域人材や地域の特色を生かした体験活動を取り入れた授業を実施する。   | ・校内研究の充実<br>・保護者、地域の教育資源を生かした授業の実施(CSの推進【実践、実証】)<br>・人材バンク年間指導計画の作成、活用   | A:3.5以上<br>B:3.2以上<br>C:3.0以上<br>D:3.0未満 | ・学習を通して、地域のことを学ぶことができた。   | ・保護者、地域の人材や環境、外部機関等を生かし、特色ある活動を行っている。              | ・校内研究をとおして、保護者、地域の特色や人材、外部機関等を生かした学習活動を考え、取り入れることができた。              |
| 9                | III 時代の要請にこたえる信頼される学校づくり | 児童・生徒の安全の確保           | 地域や保護者と連携した防災教育の推進    | 「自分の命は自分で守る」「地域の安全は地域で守る」という、自助、共助の意識と災害に対する備えや対処できる実践力を育てる。                                   | 「自分の命は自分で守る」力を育む。   | ・防災ノート、東京マイ・タイムラインの活用<br>・安全指導、避難訓練の実施方法の工夫と充実<br>・セーフティ教室、情報モラル講習会、薬物乱用防止教室、交通安全教室、がん教育、禁煙キャラバン、保健指導等の生命の安全教育の実施  | A:3.5以上<br>B:3.2以上<br>C:3.0以上<br>D:3.0未満 | ・事故や事件、災害など危険なときどうすれば良いか分かるか。」と答えた児童                                  | ・事故や事件、災害など危険なときどうすれば良いか分かる。                       | ・生命についての安全教育を行った。<br>・安全指導や避難訓練等が学校や地域、児童の実態(課題を含む)に即して計画的に実施されている。 |

|    |                                |              |                |   |   |   |  |  |  |  |
|----|--------------------------------|--------------|----------------|---|---|---|--|--|--|--|
| 10 | Ⅲ 時代の要請に<br>こたえる信頼される<br>学校づくり | 持続可能な指導体制の整備 | 組織体としての学校機能の強化 | 教職員自身が教育の不易と流行を踏まえて校務改善等に取り組み、ライフワーク・バランスの改善を図る | 教職員自ら健康を管理し、校務改善等を通して、作り出した自分の時間を、感性を磨くことにつかい、教育活動に生かす。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議の内容を精選、教員の業務時間を確保し、1か月時間外在校等時間4.5時間以内とする</li> <li>・ICT機器を活用することで、教員の業務時間を確保する。</li> <li>・R-DCAPサイクルによる改善策の作成、引き継ぎによる効率化</li> <li>・教員自身が好きなこと、得意なことを見つけ、感性を磨く</li> </ul> | <p>「現任校で自分の力を発揮できている」(ライフ・ワーク・バランス満足度調査)と回答した教員</p> <p>A: 3.5以上<br/>B: 3.2以上<br/>C: 3.0以上<br/>D: 3.0未満</p> |  |  | <p>・現任校で自分の力を発揮できている。《ライフ・ワーク・バランス満足度調査》</p> |
|----|--------------------------------|--------------|----------------|---|---|---|--|--|--|--|